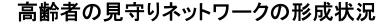
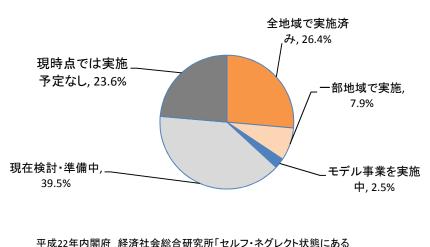
地域住民の互助活動およびNPO等による生活支援サービス



(全国1.750自治体のうち有効回答数 n=982)



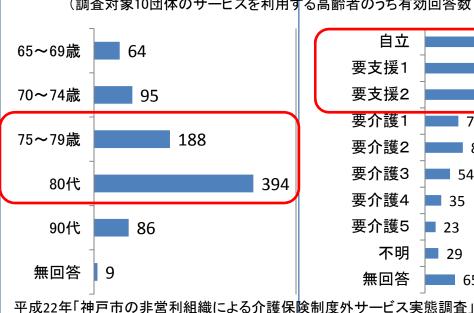
高齢者に関する調査 幸福度の視点から」

59.2 ■平成10年 ■平成20年 43.7 30.5 20.2 24.4 18.3 17.1 12.8 10.6 9.3 2.3 0.8 6.4 4.8 0.0 0.0 平成24年度版 高齢社会白書、内閣府

60歳以上の住民のグループ活動

NPO等による生活支援サービスの利用状況

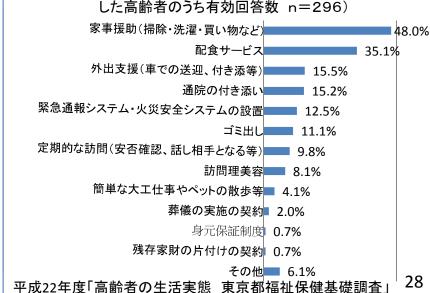
(調査対象10団体のサービスを利用する高齢者のうち有効回答数 n=836)





高齢者の利用サービス

(民間・公的を問わず介護保険対象外の生活支援サービスを利用 した高齢者のうち有効回答数 n=296)



生活支援サービスの充実と高齢者の社会参加

- 〇 単身世帯等が増加し、支援を必要とする軽度の高齢者が増加する中、見守り・配食等の生活支援の必要性が増加。ボランティア、NPO、民間企業等の多様な主体が生活支援サービスを提供することが必要。
- 〇 高齢者の社会参加をより一層推進することを通じて、<u>元気な高齢者が生活支援の担い手として活躍すること</u> <u>も期待</u>される。このように、高齢者が社会的役割をもつことにより、生きがいや介護予防にもつながる。

地域住民の参加

生活支援サービス

〇二一ズに合った多様なサービス種別 〇住民主体、NPO、民間企業等多様な 主体によるサービス提供

- ・地域サロンの開催
- ・見守り、安否確認
- •外出支援
- ・買い物、調理、掃除などの家事支援 等

生活支援の担い手としての社会参加



高齢者の社会参加

- 〇現役時代の能力を活かした活動
- 〇興味関心がある活動
- 〇新たにチャレンジする活動
 - •一般就労、起業
 - •趣味活動
 - 健康づくり活動、地域活動
 - 介護、福祉以外のボランティア活動等

<u>バックアップ</u>

市町村を核とした支援体制の充実・強化

バックアップ

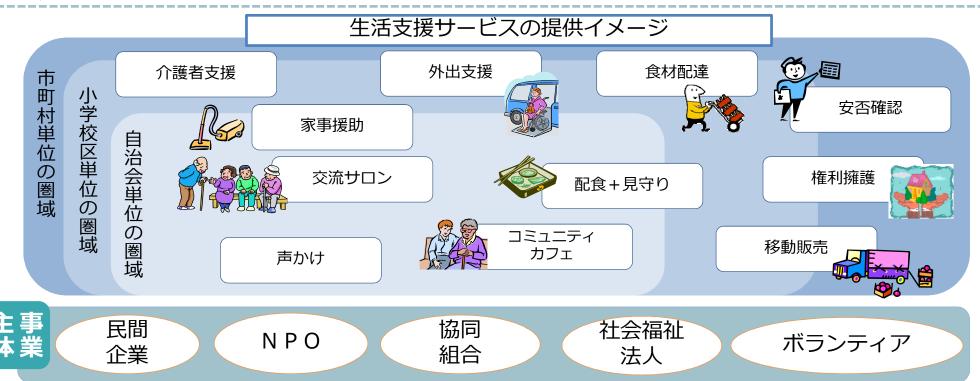
都道府県等による後方支援体制の充実

多様な主体による生活支援サービスの重層的な提供

○高齢者の在宅生活を支えるため、ボランティア、NPO、民間企業、社会福祉法人等の多様な事業主体 による重層的な生活支援サービスの提供体制の構築を支援



- ・介護支援ボランティアポイント等を組み込んだ地域の自助・互助の好取組を全国展開
- 「生涯現役コーディネーター(仮称)」の配置や協議体の設置などに対する支援



バックアップ

市町村を核とした支援体制の充実・強化(コーディネーターの配置、協議体の設置等を通じた住民ニーズとサービス資源のマッチング、情報集約等)

→ 民間とも協働して支援体制を構築

市町村を核とした生活支援サービス支援体制の充実・強化と高齢者の社会参加の推進

- <u>多様な生活支援サービスが利用できるような地域づくり</u>を市町村が支援することについて、制度的な位置づけ の強化を図る。
- 〇 生活支援サービスを担う事業主体の<u>支援体制の充実・強化(コーディネーターの配置、協議体の設置等)</u>については、市町村が行う地域支援事業の枠組みで行う。
- これらを通じ、高齢者が積極的に社会参加し、生活支援の担い手となって支援が必要な高齢者を支える社会を実現していく。これにより、高齢者は実際に介護サービスが必要となった場合に主体的に介護保険制度に関わることができる。(高齢者が中心となった地域の支え合い(互助)の仕組みの構築)

高齢者のニーズ

地

域

0

ズの

)把握

地

域資源

把握

- 生活支援サービスを 利用したい
- ・ 退職後も働きたい
- ・ 社会参加したい

現役世代のニーズ

ボランティア活動が したい

地域の人材、住民主体の 活動、NPO、民間企業等

市町村 地域包括支援 センター 支援 コーディネーター の配置 協議体の設置

ボランティア等の育成・研修や 活動体の立ち上げ支援

NPO、民間企業等の生活支援の担い手や関係機関のネットワーク化

高齢者の社会参加・ 生きがい就労の支援

例えば・・・

地域

ズ

と社

会資

源

 \mathcal{O}

マ

チ

保育士の経験を活かして学童保育 農業の経験を活かして屋上農園事業

31

(2)地域支援事業の充実

市町村による新しい地域づくりの推進(生活支援・介護予防の充実)

- 市町村が中心となってコーディネーターと連携しつつ、生活支援サービスの充実、介護予防の推進等を図ることにより、高齢者が利用可能な多様なサービスが地域で提供される。
- 高齢者の中には事業の担い手となる者も出現。これは介護予防にもつながる。
 - ⇒ 高齢者を中心とした地域の支え合い(互助)が実現。

市町村が中心となって企画・立案

地域資源の開発

(例)

- ボランティアの発掘・養成・組織化
- → ボランティアは生活支援・介護予防 の担い手として活動。高齢者の困り事 の相談の対応等も実施。(コーディ ネーターとも連携)
- 生活支援・介護予防の立ち上 げ支援



連携•協力





多様な通いの場

(例)・サロン

- ・住民主体の交流の場
- ・コミュニティカフェ
- 認知症カフェ
- ・ミニデイサービス
- •体操教室
- ・運動・栄養・口腔ケア等の教室

多様な生活支援

(例)・ゴミ出し

- ・洗濯物の取り入れ
- ・食器洗い
- •配食
- ・見守り
- •安否確認



参加・活用 (担い手となる 高齢者も出現)

支援を要する高齢者

研修を受けたボランティアが地区 の集会所で介護予防教室を運 営。

小規模多機能居宅介護に交流 施設を併設。地域のサロンとして 活用。子どもとの交流も実施。

研修を受けたボランティアが高齢者と一緒に洗濯物を取り入れる 等生活行為の自立を支援。

地域活性化を推進するNPOが地域に配食サービスを展開。

交番、金融機関、コンビニ等幅 広い関係機関が連携し、認知症 の高齢者の見守り体制を構築。